

障がいのある子どもの放課後・休日の過ごし方

ー川崎市における質問紙調査からー

○ 日本女子体育大学 雨宮由紀枝 (003240)

キーワード：障害児、放課後・休日支援、質問紙調査

1. 研究目的

2012年4月に児童福祉法に新たな支援として「放課後等デイサービス」が位置付けられ、多種多様なサービスが創設される中で、2015年4月にはガイドラインも策定された。サービスの活用が急速に進みつつある現在、障がいのある子どもの放課後・休日の過ごし方は、どのように変わってきているのであろうか。川崎市における実態を広く共有し、子どもと家族にとってより良い放課後・休日支援のあり方を検討することを目的に、「豊かな地域療育を考える連絡会（代表：新井靖子）」を運営主体として調査を行ったので報告する。

2. 研究の視点および方法

2004年に行った「川崎での障害児のサポートについてのアンケート調査」と先行研究をもとにプロジェクトメンバーで検討を重ね、川崎市在住の学齢期の障がい児童、特別な支援を必要とする児童および保護者を対象とする自記式質問紙調査を実施した。学校があるときの放課後の過ごし方、夏休み中の過ごし方について、曜日ごとの定期・不定期のサービス利用、自宅での過ごし方、それらの感想について親と子それぞれ5件法で尋ねた。あわせて短期入所、その他の福祉サービスの利用状況も伺い、最後に自由記述も加えた。質問紙は、「豊かな地域療育を考える連絡会」に参加をしている事業所・団体・個人等を介し、特別支援学校については各学校のPTAを通じて配布・回収された。調査期間は2017年10月から12月であり、有効回答票数は842であった。回答者の属性を表1～表3に示す。

3. 倫理的配慮

対象者には、文書にて調査目的、方法、結果発表について説明し、調査への自由な参加、不利益からの保護、プライバシーの保護を保障した。なお、筆者は調査プロジェクトメンバーの一人であり、代表研究者からは調査データの報告発表の許可を受けている。研究全般にわたり、一般社団法人日本社会福祉学会研究倫理指針に基づき倫理的配慮を行った。

4. 研究結果

利用している放課後・休日支援のサービスの種類を、表4に示す。学校のある期間と夏休み中を通じ、最も利用されているのは放課後等デイサービスで約6割、次いで習い事が2～3割であった。夏休み中は、部活等学校の利用が減少している。

表5に示す通り、夏休み中の1週間あたりのサービス利用日数（平均3.38日）は、学校のある期間（平均3.67日）に比べてやや少ないものの、ほぼ同様に利用されていた。週4日以上の利用が半数を超える半面、全く利用しない人は学校期間118人（14%）、夏休み中は199人（24%）に上った。夏休み中のサービス利用か所（平均1.20か所）は、学校の

表1 子どもの学校・学級

特別支援学校	485	57.6%
特別支援学級	216	25.7%
通常学級	48	5.7%
通級指導教室	24	2.9%
無回答・その他	69	8.2%
合計	842	100.0%

表2 子どもの学年

小学校	253	30.0%
中学校	175	20.8%
高等学校	345	41.0%
無回答・その他	69	8.2%
合計	842	100.0%

表3 子どもの障害 (複数回答)

知的障害	537	63.8%
自閉症	286	34.0%
発達障害	127	15.1%
肢体不自由	108	12.8%
てんかん	104	12.4%
聴覚障害	40	4.8%
視覚障害	13	1.5%
難病	22	2.6%
【再掲】		
知的障害と自閉症	159	18.9%
知的障害と肢体不自由	75	8.9%
医療的ケア	24	2.9%

表4 利用しているサービス (複数回答)

	学校のある期間		夏休み中	
放課後等デイサービス	515	61.2%	490	58.2%
習い事	242	28.7%	178	21.1%
部活等学校	135	16.0%	38	4.5%
日中一時支援	120	14.3%	108	12.8%
タイムケア	83	9.9%	77	9.1%
訓練等リハビリ	82	9.7%	64	7.6%
わくわくプラザ※	70	8.3%	46	5.5%
日中短期入所	12	1.4%	6	0.7%
学童保育	6	0.7%	5	0.6%

※放課後や土曜日・夏休みなどに小学校施設を活用して遊び場を確保する事業

表5 1人あたりの1週間のサービス利用日数・利用か所数

		学校のある期間		夏休み中	
利用日数	なし	118	14.0%	199	23.6%
	週1日	54	6.4%	34	4.0%
	週2日	85	10.1%	69	8.2%
	週3日	95	11.3%	88	10.5%
	週4日	116	13.8%	95	11.3%
	週5日	173	20.5%	160	19.0%
	週6日	158	18.8%	151	17.9%
	週7日	43	5.1%	46	5.5%
利用か所数	なし	118	14.0%	199	23.6%
	1か所	329	39.1%	349	41.4%
	2か所	272	32.3%	227	27.0%
	3か所	102	12.1%	59	7.0%
	4か所	19	2.3%	8	1.0%
	5か所	2	0.2%	0	0.0%

ある期間（平均 1.50 か所）よりやや減るが、どちらも 1～2 か所の利用が最も多く、合計 7 割を占めた。24 人の医療的ケア児のうち 75%がサービス利用につながっていたものの、利用日数や利用か所はともに少なく、ケアの難しい子どもたちへの支援が不足していた。

サービス利用の感想について、「とてもよかった」と「よかった」を合わせた割合をみると、親子ともに放課後等デイサービスが最も多く、8 割以上が好印象であった。どのサービスも、親にとって「よい」と感じている割合がやや多く、逆に自宅等は子どものほうが好印象であり、過ごす場所による受け止め方は、親子で違いがあることが示唆された。

自由記述では、学齢期卒業後の支援に対する心配、緊急時に預かってくれる場所、親亡き後の不安など、びっしりと書き込みがあり、支援を求める声が多く寄せられた。

5. 考察

放課後・休日支援のサービスが量的に増加したことが確認された。サービス利用の選択肢は増えてきたが、必ずしも少なくない課題が存在していることが明らかになった。今後の社会資源の充実とともに、子どもと家族にとってより良い放課後・休日支援のあり方の継続的検討が必要である。

【謝辞】ご協力をいただいたご家族の皆様へ、心より感謝申し上げます。

本研究は、平成 29 年度社会福祉協議会福祉基金助成事業「障がい児の余暇活動支援のための地域横断ネットワーク推進事業（代表：新井靖子）」により行われました。

連絡先：NPO 法人療育ねっとわーく川崎サポートセンター内 豊かな地域療育を考える連絡会 事務局 E-mail：info@ryoiku.com <http://ryoiku.com>